

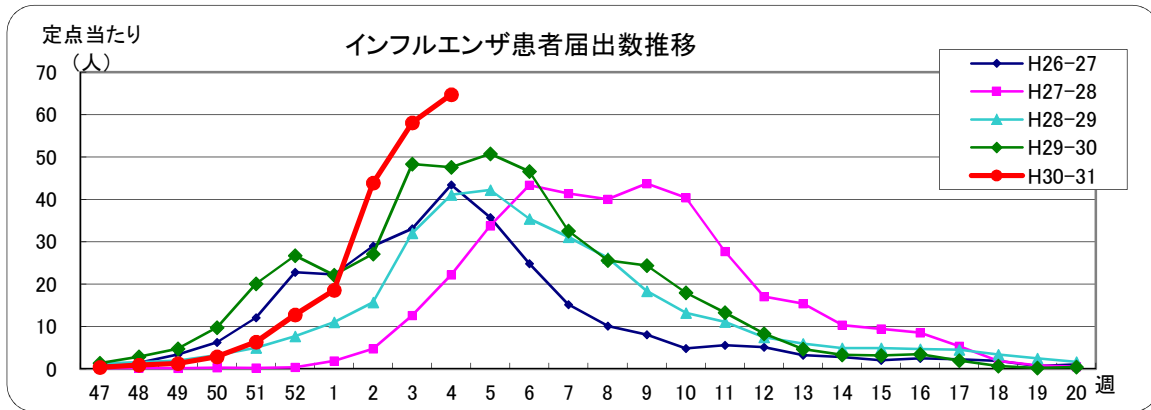
2018/19 シーズンのインフルエンザ発生状況について(2019年1月27日現在)

2019年(平成31年)1月30日
長野県健康福祉部保健・疾病対策課

1 インフルエンザの発生状況

定点当たりの患者数は、第49週(12/3～12/9)に1.28人となり、流行入りの目安となる1人を超えました。その後、第52週(12/24～12/30)に注意報基準(同10人)を上回る12.78人、第2週(1/7～1/13)に警報基準(同30人)を上回る43.87人となりました。

最新の第4週(1/21～1/27)は64.72人で、前週比約1.1倍となり、引き続き増加傾向を示しています。平成11年の調査開始以降、平成17年第9週(2/28～3/6)の76.28人に次いで2番目に高い数値となっています。



2 インフルエンザの重症化について

インフルエンザは、多くは予後良好ですが、稀に重い合併症を引き起こすことが知られており、高齢者や基礎疾患を持つ免疫不全患者では細菌性の二次性肺炎を引き起こし重症化することがあるほか、「インフルエンザ脳症」と呼ばれる重度の意識障害や中枢神経症状を呈する急性脳症を発症する場合があります。

2013/14年シーズンから現在までの間、感染症法に基づき急性脳炎※(脳症を含む)として届出のあった62例のうち、インフルエンザウイルスが検出された例は9例ありました。このうち、15歳未満は7例確認されています。

急性脳炎届出事例のうち	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	計
インフルエンザウイルス検出例	1例	1例	1例	0例	3例	3例	9例

(再括)年齢群別数

0-4歳			1		1	1	3
5-9歳	1					1	2
10-14歳					1	1	2
40歳代		1					1
70歳代					1		1

(参考)全国状況※※	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	計
	96例	101例	224例	125例	166例	—	712例

※※国立感染症研究所 感染症発生動向調査より

※【参考】急性脳炎(感染症法に基づく5類全数把握感染症)

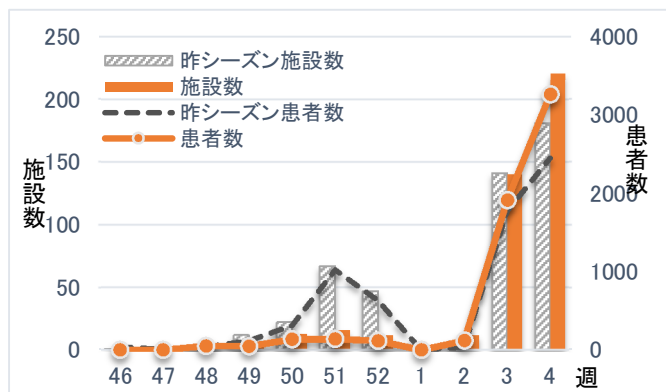
意識障害を伴って死亡した者、または意識障害を伴って24時間以上入院した者のうち、①38℃以上の高熱 ②何らかの中枢神経症状 ③先行感染症状のうち少なくとも1つの症状を呈した場合で、明らかに感染症とは異なるものは除外した上で、診断した医師は最寄りの保健所へ届出がされる。臨床診断に基づくものであり検査診断は求められていないが、病原体が判明している場合は記載することとされている。

3 学校等の休業状況

今シーズン(H30.9.3～)、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等の措置を取った施設(学校等)は延べ423施設、患者数は5,790人です。冬休み明け以降、急速に増加しています。昨シーズン同時期より、施設数、患者数とも増加しています。

詳細は、県ホームページ「学校等のインフルエンザ様疾患による休業状況」をご覧ください。

<http://www.pref.nagano.lg.jp/hoken-shippei/kenko/kenko/kansensho/joho/influ2.html>



週	4週	今シーズン 累計	昨シーズン 同時期累計
期間	1/21-27		
施設数(延べ)	220	423	320
内訳	休校・休園	5	5
	学年閉鎖	43	52
	学級閉鎖	172	263
患者数	3,266	5,790	4,059

4 医療機関、社会福祉施設の集団感染の状況(1月29日現在)

医療機関及び社会福祉施設でインフルエンザによる集団感染が発生したのは、48施設で、感染者数は合計755人です。

	感染者数				
	施設数	入院患者 ・利用者数	職員数	合計	うち死亡者
医療機関	11	215	100	315	3
社会福祉施設	37	308	132	440	5
(内訳)					
高齢者施設	29	251	105	356	5
障がい者施設等	8	57	27	84	0
合計	48	523	232	755	8

5 インフルエンザの予防方法

インフルエンザによる合併症を防止するには、まず、インフルエンザに感染しないよう予防対策を徹底することが必要です。「かからない」「うつさない」ように十分注意してください。

(また、インフルエンザワクチンについては、本格的な流行期の前に接種することで、発病する可能性を低減させる効果と、重症化の予防効果が認められています。)

【かからないために】

- ・流水や石けんを使って十分な手洗いを行いましょう。アルコール製剤による手指消毒も効果があります
- ・十分な休養やバランスの取れた栄養摂取により、体力や抵抗力を高めましょう
- ・乾燥しやすい室内では、加湿器などを使って適切な湿度を保ちましょう
- ・なるべく人混みに出かけることを避け、やむを得ず人混みに入るときにはマスクを着用しましょう

【うつさないために】

- ・具合が悪い場合は早めに医療機関を受診しましょう
- ・かかってしまったら早めに休養し、睡眠を十分とりましょう
- ・水分を十分に補給しましょう
- ・咳やくしゃみがある場合には周りの方へうつさないよう、マスクを着用するなど咳エチケットに努めましょう
- ・インフルエンザと診断されたら、学校や職場は休みましょう

長野県ホームページ

「インフルエンザ情報(季節性インフルエンザ)」

<https://www.pref.nagano.lg.jp/hoken-shippei/kenko/kenko/kansensho/joho/influ.html>

「学校等のインフルエンザ様疾患による休業状況」

<https://www.pref.nagano.lg.jp/hoken-shippei/kenko/kenko/kansensho/joho/influ2.html>

**季節性インフルエンザによる
医療機関・社会福祉施設の集団発生状況 (2018年12月～)**
保健・疾病対策課 把握分

平成31年(2019年)1月29日現在
保健・疾病対策課

◆ 1月28日までの状況

	施設数	感染者数				
		入院患者数 ・入所者数	職員数	合計	うち死亡者	
医療機関数	箇所 7	人 155	人 83	人 238	人 3	
社会福祉施設	31	266	103	369	3	
内 訳	高齢者施設	25	220	90	310	3
	障がい者施設等	6	46	13	59	0
合計	38	421	186	607	6	

◆ 1月29日把握分

	施設数	感染者数				
		入院患者数 ・入所者数	職員数	合計	うち死亡者	
医療機関数	箇所 4	人 60	人 17	人 77	人 0	
社会福祉施設	6	42	29	71	2	
内 訳	高齢者施設	4	31	15	46	2
	障がい者施設等	2	11	14	25	0
合計	10	102	46	148	2	

◆ 累計

	施設数	感染者数				
		入院患者数 ・入所者数	職員数	合計	うち死亡者	
医療機関数	箇所 11	人 215	人 100	人 315	人 3	
社会福祉施設	37	308	132	440	5	
内 訳	高齢者施設	29	251	105	356	5
	障がい者施設等	8	57	27	84	0
合計	48	523	232	755	8	

インフルエンザによる死亡者等の状況について

平成 31 年 1 月 30 日

保健・疾病対策課感染症対策係

1 インフルエンザによる死亡者（出典：人口動態調査）

(1) 長野県の状況

年齢区分	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年
5歳未満	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
5～9歳	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人
10～14 歳	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
15 歳未満計	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人
全体数	29 人	22 人	35 人	24 人	47 人
うち 65 歳以上	27 人 93%	18 人 82%	32 人 91%	23 人 96%	44 人 94%

(2) 全国の状況

年齢区分	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年
5歳未満	11 人	22 人	5 人	21 人	12 人
5～9歳	4 人	16 人	5 人	7 人	2 人
10～14 歳	2 人	3 人	0 人	10 人	5 人
15 歳未満計	17 人	41 人	10 人	38 人	19 人
全体数	1,514 人	1,130 人	2,262 人	1,463 人	2,569 人
うち 65 歳以上	1,416 人 94%	949 人 84%	2,163 人 96%	1,250 人 85%	2,449 人 95%

2 感染症サーベイランス

急性脳炎届出事例のうちインフルエンザウイルス検出事例

シーズン	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19
長野県	1 件	1 件	1 件	0 件	3 件	3 件
全 国	96 件	101 件	224 件	125 件	166 件	—

※ 報告数のうち、各シーズンとも 15 歳未満が 6 割以上を占める。

(長野県再括) 年齢別

シーズン	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19
0～4 歳			1		1	1
5～9 歳	1					1
10～14 歳					1	1(1)
40 歳代		1(1)				
70 歳代					1	

※ () 内はうち死亡者数

【インフルエンザ脳症】

インフルエンザに伴って発症し、意識障害、けいれん、異常行動などの急速に進行する神経症状が見られ、ときに生命に関わることもある。

主に子どもに見られる病気として知られているが、大人が発症するケースもある。

発症する原因としては、インフルエンザに罹患したことによる免疫の異常ともいわれているが、はっきりとした原因は解明されていない。